

## 診療部長就任のご挨拶

診療部長 森田知子



平成14年揖保川病院に赴任した当初は卒後5年目の新米医師でしたが、その後精神保健指定医を取得し、地域医療の現場で、良き同僚や素晴らしい病院スタッフに囲まれながら、医師として様々な経験を積んでまいることができたのも、揖保川病院のおかげであると感謝しております。今回は診療部長に就任することになりましたが、その責任を考えると身のひきしまる思いで一杯です。

私が赴任した当時の揖保川病院は、今に比べると、のんびりとした、どこか懐かしい感じのする病院であったと思います。赴任の前に大学病院でのあわただしい日々を過ごしてきた私にとって、そのゆったりと時の流れているような病院は、ある意味において精神科医療のあるべき姿であるようにも思えました。

その後は皆様もご存知のとおり、揖保川病院は新病棟の竣工、オーダーリングシステムの導入、日本医療機能評価機構の受審、急性期治療病棟の開始等々、次々と変化を遂げ今に至ります。

今年は、日本医療機能評価機構の再受審やオーダーリングシステムの更新なども控えており、今後ますます、変化・革新をとげていくのだと考えております。こういった変化に伴い、我々にも新しい知識や仕事への取り組み方などが求められるようになると思います。急ピッチで進む様々な変化に全力で取り組み、これを克服してきたスタッフには目を見張る思いですし、皆様と苦勞を共にしてきたことは私の喜びでもあります。

考えてみますと、この限られた期間の変化は、社会的な状況、人と人との関係の在り方、家族の関係の変化に伴う、病院に対する、社会的なニーズに対応するための試みであったと思われます。今後も、揖保川病院は地域医療を支えるために必要な変化をとげていく必要がありますし、患者様の立場にたって、より良い医療サービスを提供していただけるように、今後とも病院スタッフと共に頑張っていきたいと願っております。